

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



「松川浦海岸防災林復旧工事」（福島県相馬市大字磯部 大洲国有林）
（撮影：関東森林管理局 磐城森林管理署）

◎ 『2019年 敷島公園まつり』
～ めざせ こうえん☆マイスター ～

技術普及課・・・2

◎ 高尾の森から

高尾森林ふれあい推進センター・・・3

◎ 森づくり最前線
茨城森林管理署

磯原森林事務所 森林官 田川 将昭・・・5

棚倉森林管理署

笹原森林事務所 森林官 柿沼 昇・・・6

『2019年 敷島公園まつり』
 めざせ とうえん☆マイスター 技術普及課

群馬県、前橋市、関東森林管理局などの共催により、毎年4月29日に群馬県立敷島公園において「敷島公園まつり」を実施しています。今年も会場内にブースを出して、「みどり」を守り・育て・活かすことの大切さを発信しました。

この日は晴天に恵まれ、敷島公園には約2万人の方々が来場しまし



のぼりやパネルで「山の日」(8月11日)をPR

た。関東森林管理局のブースにも昨年を上回る方が訪れ、順番待ちの列が途切れることのないほど賑わいました。

当日は、技術普及課と赤谷森林ふれあい推進センターが協力して、「山の日」(8月11日)のPRや「木のしおり」「缶バツジ」作り、「森のかげら



大賑わいの親子で「木のしおり」作り



ストラップ」作り等の体験を行いました。自分で絵を描いた紙や様々な葉っぱなどを「缶バツジ」に加工

したり、フィルムに挟んで「木のしおり」を作ったり、好きな形の木のかげらに絵を描いたりスタンプを押ししたりする「森のかげらストラップ作り」など、参加した子供達は、オリジナル作品を友達同士で見せ合ったり、記念撮影をしたり、満足そうに持ち帰りました。



齋藤局長、高野群馬森林管理署長も苗木を配布



また、「緑の募金推進中央キャンペーン」として、(公社)群馬県緑化推進委員会、群馬県、前橋市、(一財)群馬県森林・緑整備基金及び関東森林管理局が連携して、ブルーベリー、ハコネウツギ、オリーブ、ロウバイの苗木配布会を開催し、広く緑化の普及を図るとともに、緑の募金にご協力をいただきました。

さらに、今年には天皇陛下の御在位三十年を記念して、群馬県知事ほか県議会副議長、広瀬川河畔緑の少年団の子供たちによるシダレザクらの植樹が行われました。



天皇陛下御在位三十年記念シダレザク植樹 (左から3番目は大澤群馬県知事)



高尾森林ふれあい推進センターでは、多くの方に森林や林業に対する理解を深め、森林に親しんでいただくために、高尾山の国有林と施設を活用して、様々なイベントを実施しています。

今回は、令和元年度5月までの活動を紹介します。



委嘱証明書の交付式

【フォレストサポートスタッフ (FSS) 委嘱証明書交付式】

当センターが実施する森林教室や森林カレッジ等のイベントをサポートしていただく森林ボランティアスタッフ「フォレストサポートスタッフ (FSS)」の委嘱証明書の交付式を4月13日(土)に当センター1階の展示室において実施しました。

この制度は、森林管理局署等において実施する森林教室や体験林業等について、関東森林管理局長が実施業務に係る協力者としてイベントスタッフを委嘱する制度です。委嘱期間は1年です。

今年度は37名(新委嘱者1名を含む)に委嘱され、出席いただいた25名に当センター所長から委嘱証明書を交付しました。その後は、FSSの制度、活動の実績と計画の説明、安全講習等を行いました。FSSの皆様には、当センターが開催する森林教室等に毎回ご協力をいただき、当センターにとっては欠かせない存在となっております。今年度もFSSの皆様のご協力をいただきながら、より良い森林環境教育の実施に取り組んで参

りたいと考えています。

【森林教室】

教育機関等からの依頼により実施している森林教室は、出前を含めて2ヶ月で4回実施しました。4月19日に中央区立佃島小学校5年生100名、5月8日に出前で八王子市立みなみ野小学校3年生95名、5月21日にみなみ野君田小学校5年生103名、5月22日に出前で三鷹市西野保育園5歳児25名が参加し、森林の働きや林業について説明を受け、丸太切りや森林観察等を体験しました。



森林教室の様子

【森林カレッジ】

今年度第1回目の森林カレッジを5月18日に27名の方が参加して実施しました。講師には、一般社団法人森林・自然環境技術者教育会会長の桜井尚武先生お招きして、森林の多面的機能や森林の植生や森を守るにはどうすれば良いのかといった、幅広く丁寧に講義をしていただきました。

午後からは、高尾山に登りながら樹木の特徴や人工林の育て方などについて解説していただきました。なお、森林カレッジは、毎年5・7・10・1月に開催する予定です。



講義の様子(森林カレッジ)

【協定イベント】

関東森林管理局長と森林ボランティア団体が森林ふれあい推進事業による協定を締結し、様々なイベントを実施しています。

今年度は、森林インストラクター東京会、森とでんえん倶楽部、森と人のネットワーク、高尾パークボランティア会の4団体と協定を締結しました。それぞれの団体が創意工夫したイベントを年間35回・1、300人の募集定員により実施する予定です。



高尾山での実習（森林カレッジ）



ニホンカモシカ(日本羚羊)
約110cm。右前にシカとつかウシの間。
好奇心が強く、人と出会っても逃げずに見つめてくる。



協定イベント：自然観察会（沢に住む生き物探し）

きのこ特集

【美しさに秘められた猛毒】

シロタマゴテングタケ（猛毒）
（テングタケ科 テングタケ属）
8月上旬から10月中旬ブナ科及びマツ科の樹下に単生から散生します。

カサは、3cmから10cm位で白色、湿っている時は多少の粘性がありますが溝線はなく、ヒダは白色で離生します。

柄は、7cmから10cm位で白色でササクレはなく平滑です。下部には白色のツボ（外被膜）があり、上部には白色膜質のツバ（内皮膜）があります。

毒成分は、アマニチン、ファロイジンなどで、食べると数時間後に発熱や腹痛がおこり、やがて各臓器や血液を破壊し死に至ります。



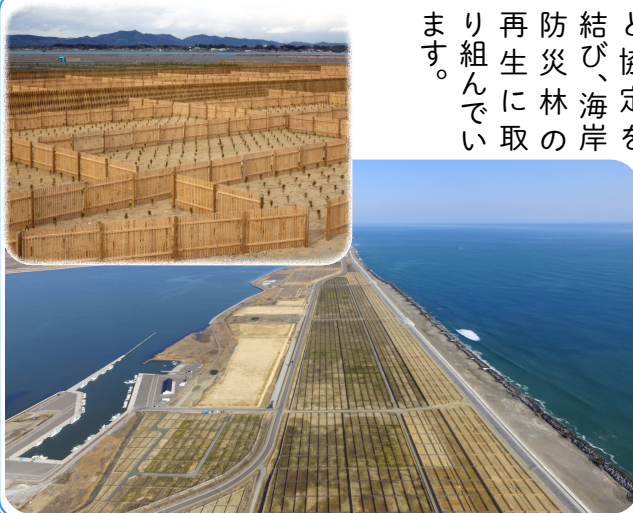
今月の表紙

「松川浦海岸防災林復旧工事」
（福島県相馬市）

平成23年3月11日の東日本大震災により発生した津波は、松川浦の浸食を防いでいた護岸工を破壊し、多くの立木が流失しました。

磐城森林管理署では、失われた松林の再生に向け、風害・潮害防備や生活環境の保全や、津波の被害軽減効果を考慮し、被災した護岸工の復旧、海岸防災林造成（盛土工・植栽工）に取り組んでいます。

また、ボランティア活動により、植栽から保育までの一定期間の森林整備を行う民間団体等を募集し、現在14団体と協定を結び、海岸防災林の再生に取り組んでいます。



森づくり最前線

茨城森林管理署

磯原森林事務所

森林官 田川 将昭

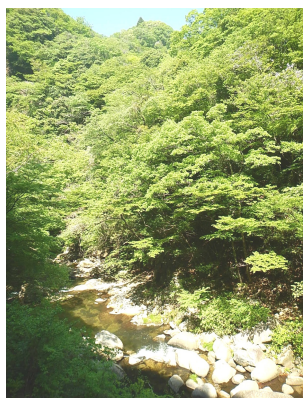


ニツ島

私が勤務している磯原森林事務所は、茨城県北東部に位置する北茨城市、高萩市の一部を合わせた約2、800haの国有林を管理しています。

北茨城市は名勝も多く、入り江や断崖絶壁の続く五浦海岸、常磐炭田、二ツ島、五浦温泉などがあり、特殊な地質や自然・歴史を学習するためのジオパークの整備も進められています。

管轄する国有林の大部分は花園花貫県立自然公園に指定され、山地から海岸林に至るまで様々な自然環境を有しています。



新緑の大北溪谷

国有林は、住宅や道路などに接する場所も多いため、色々な意味で住民との関わりが濃い地域です。事務所に電話等で直接呼び出しがあることも時々ありますが、日々森林をパトロールする中で、民有地と国有林の境に異状がないか、不法投棄された粗大ゴミや車などはないか、林地の状況を見ながら伐採は可能か、搬出ルートは大丈夫か、今後の造林や必要な森林施業は何か、などなど、色々考えながら確認し、メモや写真等を取りつつ林内を歩くようにしています。

管内の国有林では、伐採搬出から地拵え、植付等の一連の作業を同じ契約者が行う「一貫作業システム」や「コンテナ苗の導入」、国有林と民有林が協調して間伐を行う「公益的機能維持増進協定」による取組が行われています。



一貫作業システム

また、森林技術支援センターや森林総合研究所と共同して行う各種試験地も設定されるなど、先導的な取組が行われています。

近年、全国的にニホンシカによる被害が拡大傾向にあります。こと茨城県に於いては古くから狩猟が盛んであったことなどから遠い昔にシカは絶滅しており、それ以降現在までシカによる被害とは無縁の環境でした。ところが最近、「県境からシカが入ってきている！」という目撃情報や定点カメラによる撮影画像などが時々見られるようになって来ており、収穫量と同時に増え続ける造林地を抱え、少々不安を感じているところですが、



イカル(鶇)

約2.3cm。口笛で短いメロディをくり返すのが特徴。黄色い大のくちばりは木の実に割ると役立つ。



麓から見た管内の山々

磯原森林事務所は花園森林事務所との合同事務所となっています。隣の席にもう一人森林官がいますので、わからないことや気になった事など気軽に相談できるため、とても助かっています。

今後も国有林の中で何が求められているのか、自分には何ができるのか等を考えながら仕事をしたいと思っています。

森づくり最前線

棚倉森林管理署

笹原森林事務所

森林官 柿沼 昇

私が勤務する棚倉森林管理署 笹原森林事務所は、福島県の南部に位置する東白川郡塙町にあります。

塙町は、阿武隈山地の南部の比較的なだらかな地形が続く高地に位置し、町の中心部を森林が囲むように分布しており、清らかな溪流や四季折々の自然景観が残るのどかな地域に約8、700人が在住しています。

農林業を中心とした産業が主体で、水稲や酪農、畜産のほか、こんにやく、リンゴ等の生産、林業等が盛んな町です。

また、塙町のある東白川郡周辺の気候は東北地方の中でも比較的温暖で、肥沃な土壌が多く存在していることから、古くか



塙町の町並み

らスギ・ヒノキを中心とした林業が積極的に営まれていた地域でもあり、恵まれた森林資源を活かして町内には、日本最大規模の製材工場が立地しています。

私が管轄する笹原森林事務所では、約5、800haの国有林を管理しています。また、管内の国有林は、林地生産力が高く、スギやヒノキの生育は福島県内でも良好な地域となっております。

このようなことから管理する国有林の80%が人工林となっている等、棚倉森林管理署管内でも人工林が多い森林事務所です。

当森林事務所の平成31年度（令和元年度）の事業量は、署全体で49、000m³の素材生産量の内18、000m³、新植



清らかな清流

（地拵・植付）70haの内19haを予定しております。

棚倉森林管理署では、今後数年、契約林の期間満了に伴う売払等の増加により新植が1000haを大きく超えることが予想され、新植・下刈等の低コスト化・省力化が重要な課題となります。

現場のフロントローの森林官として、現地踏査から適切な森林施業の判断を行い低コスト化・省力化に繋げることができるよう日々森林と接して行きたいと考えております。



製材工場



立木販売箇所（搬出の様子）



新植箇所

編集

発行

FILEX

集所

(00)

22

総関

77

東

22

森

31

務林

00

管

11

理

31

局

95

38